

# 生涯学習センターの役割と事業

石川県立生涯学習センター  
担当課長 竹林 義隆  
(社会教育グループリーダー)

## 一 はじめに

「生涯学習センター」の役割について明記しているのは、少し古いですが、平成二年一月に出された中央教育審議会答申「生涯学習の基盤整備について」である。この答申には、次のように示されている。

「それぞれの地域の生涯学習を推進するための中心機関となる生涯学習推進センターを設置することが必要と考えられる。この「推進センター」は、その果たすべき機能や人々の学習活動圏の広がりにかんがみ、都道府県が設置し、次に掲げる事業を集中して行うことが適当である。

- (一)生涯学習情報の提供及び学習相談体制の整備充実に関すること
  - (二)学習需要の把握及び学習プログラムの研究・企画に関すること
  - (三)関係機関との連携・協力及び事業の委託に関すること
  - (四)生涯学習のための指導者・助言者の養成・研修に関すること
  - (五)生涯学習の成果に対する評価に関すること
  - (六)地域の実情に応じて、必要な講座等を主催すること
- この答申で掲げられた六つの役割・機能は基本的には今日まで変

わらず、現在もなお、各都道府県立の「生涯学習推進センター」に期待されているものである。

そこで、この六つの視点から捉えた、当センターの事業について紹介することとする。

## 二 生涯学習情報の提供及び学習相談体制の整備充実に関して

県民の方々が自分に適した学習機会を選択することができるよう、学習情報を迅速に入手したり、学習相談を手軽に受けたりすることが重要である。

本県では、県民の方々がいつでも、どこでも学べる生涯学習のシステムとして、平成二年から「石川県民大学校」を開校し、今年度は一千を越える講座を開設した。毎年四月には、その内容や期日等をまとめた受講案内冊子を県内の公民館や図書館等に配布し、県民の方々への情報提供を行っている。その他、当センターでは県内の生涯学習情報をインターネットで検索できる「生涯学習情報提供システム(通称:あいあいネット)」を設置し、講座や講師、視聴覚教材など約一万五千件以上の情報を

登録・提供している。

また、学習相談体制については、当センター内に設置している「学習情報センター」が、生涯学習の計画と実践に関する学習相談の窓口となっている。

## 三 学習需要の把握及び学習プログラムの研究・企画に関して

県民の方々の学習需要を的確に把握するための調査研究を行ったり、新たな学習プログラムを研究開発することが求められている。

当センターでは、金沢大学社会教育研究振興会及び同大学地域連携推進センターとともに、生涯学習に関する県民の意識や実態を把握するために調査研究を行っており、昨年十二月に「生涯学習に関する県民意識調査報告書」を発行したところである。県内全域の二十歳以上の男女を年代ごとに無作為に抽出して調査し、八百名余りの回答を得た。調査結果については、今後の事業の企画にあたっての参考にしていきたい。また、各市町や関係機関においても、今後の生涯学習の施策の参考にしていただけたら幸いである。

今後も県民の意識や学習需要を

把握するとともに、地域の教育力向上に向けた調査研究等を実施していく必要があると考えている。

また、学習プログラムの研究についての取組は十分とは言えず、今後の課題と考えている。

## 四 関係機関との連携・協力及び事業の委託に関して

生涯学習の推進及び県民の方々の学習機会の整備充実には、当センターのみで行うには限界があり、大学・高校等の学校、市町の社会教育施設、スポーツ・文化施設、民間教育施設等との連携・協力が不可欠である。

当センターでは、いくつかの事業で、このような関係機関・団体と連携・協力を図っている。

先ほどの「石川県民大学校」で開講しているほとんどの講座は、県内約二百もの実施機関によって企画・運営されている。その中には「いしかわ生涯学習講師の会」や「SVC(生涯学習センタービデオクラブ)」等、県民大学校大学院や県民映像カレッジの修了者の方々により組織された団体もある。その他、調査研究や各種研修

会の企画・運営にあたっては、各市町や金沢大学との連携・協働により実施している。

県民の学習需要の多様化と高度化が進んでおり、これに対応するためには、今後とも関係機関・団体との幅広い連携・協力を進めていく必要があると考えている。

## 五 生涯学習のための指導者・助言者の養成・研修に関して

生涯学習を推進するためには、多様な学習活動について指導・助言を行う者の役割が重要であり、その人材の養成や資質の向上、さらには、人々の生涯学習を支援するボランティアなどの育成に向けた研修が求められている。

地域において生涯学習を推進している主な公的機関は公民館である。当センターでは、公民館職員の方の資質向上を図るための「公民館職員研修」や市町の生涯学習・社会教育担当者を対象とした研修を毎年実施しており、多くの関係職員の方々に参加していただいている。その研修内容を吟味し、より有意義な研修となるよう、一層の工夫をしていきたい。

その他、地域や組織で活躍できる実践力を持った人材を育成するため、地域活動やNPO活動に取り組んでいる方など一般の方々を対象にした「ファシリテーター養成講座」を実施している。より多

くの方々がこの講座に参加し、地域の指導者として、地域の活性化に向けて取り組んでいただけるよう強く願っている。

## 六 生涯学習の成果に対する評価に関して

学習者にとって、学習した成果が適切に評価され、さらには様々な形でその成果を活用する機会が与えられることが重要である。

「石川県立大学校」の各種講座を四十五単位以上取得した方には、県立大学校長（県知事）から修了証書が授与される。また、修了者には、より専門的な学習の機会として、平成十一年度から大学院を設置している。大学院では受講生各自が設定したテーマを研究し、大学教授等の指導のもと、論文作成を行うなど、自己研鑽に励むことができる。

さらに、大学院修了者は「あいあいネット」に講師として登録したり、当センターで開講している「あすなる悠々塾」の講師となったりすることもできる。この「あすなる悠々塾」は、一般の方が生涯学習を通して学んだ成果を発表できる機会として平成二十二年度から開設しており、内容も多岐にわたっている講座である。

## 七 地域の実情に応じて、必要な講座等を主催する仕組みづくり

各都道府県や地域の実情に応じて、既存の機関では十分に提供されていない学習機会を充実するため、生涯学習センター自体が学習機会を提供することも重要である。

当センターの主催講座は、先にあげた「ファシリテーター養成講座」「あすなる悠々塾」のほか、ふるさと石川に対する愛着を深め、地域における課題や身近な活動への関心を高めるための「いしかわいきいき講座」や、当センターが所蔵するビデオ等を活用した「兼六ビデオ講座」や「本多の森映画会」等がある。その他、県立大学校修了証書交付式や大学院開講式等に合わせて、記念講演も実施している。

また、能登空港ターミナルビル内にある生涯学習センター能登分室では、「能登文化講座」「能登陶芸教室」や「いしかわを知る講座」等を実施し、能登地域における学習機会の提供に努めている。

## 八 終わりに

平成二年の中教審答申以降、生涯学習センターの役割について明文化されたものはないが、社会の急激な変化とともに、生涯学習センターに対する新たな役割が求められる。平成二十年二月に出された中央教育審議会答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」知の循環型社会の構築を目指して」では、「各個

人が自らのニーズに基づき学習した成果を還元し、社会全体の持続的な教育力の向上に貢献する」といった知の循環型社会を構築する」ことの重要性が指摘された。

こうしたことから、生涯学習センターの役割に、学習成果が活用され、「社会に還元」されることの重要性がこれまで以上に増してきた。大学院修了生やファシリテーター養成講座修了生はもとより、県立大学校を通して学習した方々が、学んだ成果を広く「社会に還元」していただけるよう期待するとともに、当センターとしても、このような方々にさらなる活躍の場を提供できるよう、支援して行くことの重要性を感じている。

また、地域社会の教育力を向上し、地域の教育的課題に対応するため、市町や関係組織・機関の間で横断的なネットワークの構築が重要であり、そのネットワークの拠点としての役割も生涯学習センターに求められている。

当センターが果たすべき役割は多様で、国の動向を見極めながらも、県民の方々一人一人が、充実した心豊かな生活を送るとともに、社会全体が活性化するように、今後関係団体・機関と連携・協力しながら、生涯学習の振興に向けて取り組んでいきたい。

今後とも、よろしく願います。